

# GPN Column

グリーン購入ネットワーク コラム Vol.13

## ESGレポート（統合報告書）の傾向

松尾 幸喜

（一般社団法人サステナビリティ情報審査協会 代表理事）

### ■投資意思決定において重視される ESG 情報

企業を評価するうえで、財務情報のみならず非財務情報が有用であるという認識が、近年急速に社会に浸透してきています。2000年にGlobal Reporting Initiative (GRI)によって公表されたサステナビリティレポートガイドラインおよびその後4回を重ねた改訂版が、当該認識を世界中に浸透させるための大きな機会を提供したのは論を俟ちません。

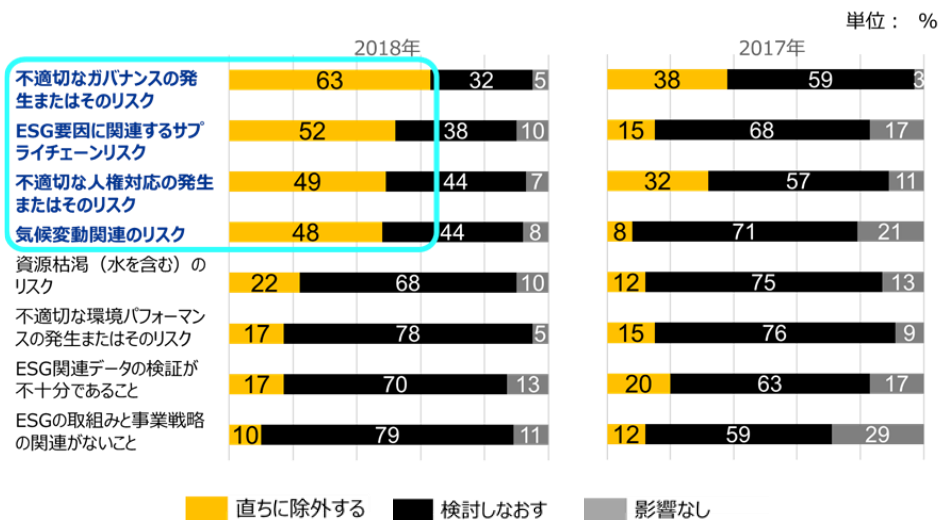
これと並行して2013年末に国際統合報告評議会 (IIRC) が国際統合報告フレームワークを発表したことを契機に、当該認識は特に証券市場において浸透するようになりました。証券市場関係者は、彼らの企業評価にとって重要な非財務情報は、特に環境 (environment)、社会 (society)、ガバナンス (governance) に関する情報であると考え、それらの頭文字をとって ESG 情報と呼んでいます。

証券市場関係者が重視する ESG 情報とはどのような情報なのでしょうか。

国際的な会計事務所である EY が世界の投資家を対象に2018年に実施した調査 (有効回答数 = 260) では、8種類の ESG 関連のリスク情報を対象として、それらの情報が

今後の投資意思決定にどのように影響するかを問うています。回答には、「直ちに除外する (投資を中止する)」「(投資適格性を) 検討しなす」「影響なし」の3つの選択肢が準備されていました。

調査の結果、すべての ESG リスク情報に関して、驚くべきことに約9割あるいはそれ以上の機関投資家が「直ちに除外する」または「検討しなす」と回答していました。「影響なし」と回答した機関投資家はおよそ1割もしくはそれ以下にすぎませんでした。



出典：EY「Does your nonfinancial reporting tell your value creation story?」(2018)を基に筆者が作成 (日本語訳も筆者による)。引用にあたってはEYから許諾取得済。

図1：世界の投資家の投資意思決定に影響する ESG 情報

[続きはGPN会員専用ページからご覧いただけます。](#)